

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	工業英語 I	
科目基礎情報							
科目番号		0130		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		物質工学科		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		1	
教科書/教材		Judy先生の耳から学ぶ科学英語（野口ジュディー著、講談社サイエンティフィク）					
担当教員		山崎 博人					
到達目標							
①辞書を使用しなくても内容を把握できる。 ②英文の構成を理解できる。 ③重要な英文法を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1		科学英単語を含む英単語が書ける	科学英単語を含む英単語が3/4書ける	科学英単語を含む英単語が3/5書ける	科学英単語を含む英単語が書けない		
評価項目2		英文の構成が理解できる	英文の構成が3/4理解できる	英文の構成が3/5理解できる	英文の構成が理解できない		
評価項目3		英文法が理解できる	英文法が3/4理解できる	英文法が3/5理解できる	英文法が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術の発展が急速化している今、エンジニアは英文を読み込み、素早く情報を手に入れる必要がある。本講義では、英文を集中的に読み、内容把握のコツを教授し、迅速かつ正確に内容を理解できる能力を養う。また、日本人が誤りやすい表現と用語の発音についても授業で取り上げ、コミュニケーション能力の向上も目的とする。					
授業の進め方・方法		予習および復習をすること。 辞書なしで大意を把握できるような読解力を身につけるように、積極的に科学・工学に関わる単語を多く覚えること。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。					
注意点		成績評価は期末試験とレポート課題により評価する。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 整数の表現（L1）、寸法の表現（L2）、 元素名の表現（L16）		整数・寸法・元素名の表現を理解することができる。 【課題】 p.10, pp.61-62[発音練習3回], p.63		
		2週	分数、少数の表現（L3）、数式の表現（L4）、 無機化合物の表現（L17）		分数、小数・数式・無機化合物の表現を理解できる。 【課題】 p.13, p.16, pp.64-65[発音練習3回], p.66		
		3週	日常的な数の表現（L5）、数詞の表現（L6）、有機化合物の表現（L18）		数詞・序数・有機化合物の表現を理解できる。 【課題】 p.17, p.20, pp.21-23, p.25, pp.67-68[発音練習3回], p.70		
		4週	序数の表現（L7）、 実験器具の表現1（L11）		日常的な数・数詞・有機化合物の表現を理解できる。 【課題】 pp.26-27, pp.39-43		
		5週	実験器具の表現2（L11）		実験器具の表現を理解することができる。2 【課題】 pp.44-46		
		6週	図表の表現（L12）		図表の表現を理解することができる。 【課題】 pp.47-50, p.52		
		7週	色の表現（L19）、形の表現（L20）		色・形の表現を理解することができる。 【課題】 pp.71-72[発音練習3回], p.73, p.74[発音練習3回], p.76		
		8週	期末試験				
	2ndQ	9週	まとめ		試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。		
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。		3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。		3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。		3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。		3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。		3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。		3	
評価割合							
			レポート	レポート提出状況		合計	

総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	40	0	40
専門的能力	30	0	30
態度・志向性	0	30	30